

平成27年度決算

平成27年度の決算が、平成28年第3回志木市議会定例会で認定されました。

私たちが納めた税金がどのように使われ、また、市の財政がどのような状況にあるのかをお知らせします。

問合せ／財政課 内線2252

一般会計

平成27年度の一般会計の決算額は、歳入が227億5千万円、歳出が211億円になり、差引額は16億5千万円となりました。ここから、翌年度の事業に使うために繰り越すべき財源(6千万円)を差し引いた額の15億9千万円(黒字額)が実質収支額となり、前年度に比べると1億3千万円の増加となりました。この実質収支額は、平成28年の歳入に繰り越されます。

また、市の貯金である財政調整基金の残高は、26億4千万円となり、前年度に比べると5千万円の減少となりました。

歳入

歳入の総額は、前年度に比べて、2億9千万円の減少となりました。

この減少の主な要因は、消費税率引き上げに伴う地方消費税交付金が4億3千万円、民間保育園などへの運営助成の財源となる特定教育・保育施設及び特定地域型保育型運営費負担金が3億9千万円増加したものの、宗岡小学校校舎大規模改修事業の終了などに伴い、市債(借金)が前年度に比べて8億円減少したことに加えて、市民病院の民間移譲に伴って生じた病院事業剰余金が約5億9千万円の減少となったことなどによるものです。

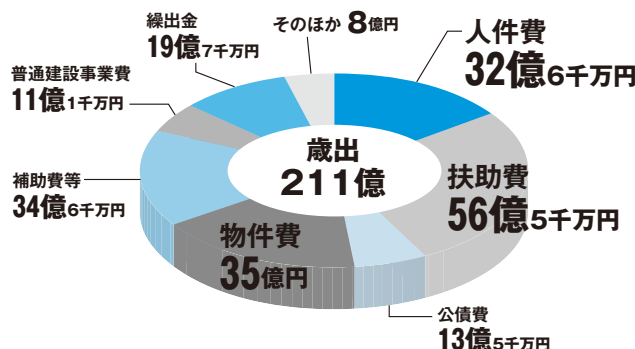
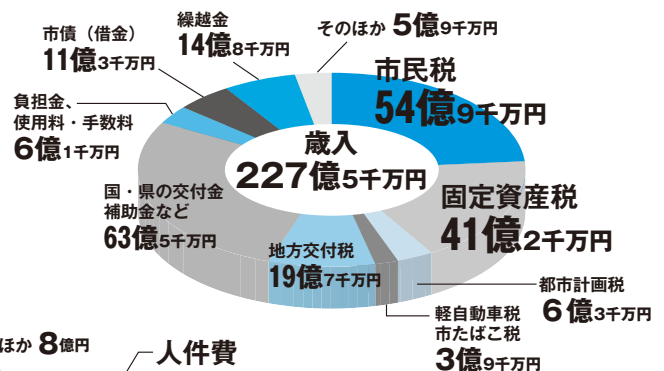
歳出

歳出の総額は、前年度に比べ4億7千万円の減少となりました。

これは、民間保育園などへの運営助成である特定教育・保育施設及び特定地域型保育委託等事業などの扶助費が3億8千万円増加したことや、児童保育クラブの運営経費などの物件費が2億7千万円増加したものの、小学校校舎・体育館の大規模改修事業などが終了したことにより、普通建設事業費が前年度に比べ8億6千万円減少したことなどによるものです。

市民1人あたりでは…
市税の負担 14万3千円
市民サービスに使われたお金 28万4千円

※市税の負担は、市税収入額を人口(平成28年3月31日現在)で除した額。
※市民サービスは、一般会計の歳出額を市民一人あたりに換算した額。



◆平成27年度特別会計

会計名	歳入額(うち一般会計繰入金)	歳出額
国民健康保険	97億1千万円(5億5千万円)	92億円
志木駅東口 地下駐車場事業	6千万円	5千万円
介護保険	37億2千万円(5億7千万円)	35億9千万円
後期高齢者医療	7億6千万円(1億3千万円)	7億4千万円

◆平成27年企業会計

(水道事業会計)

収益的収入 及び支出	収入	支出	当期純利益
	13億4,949万円	11億5,208万円	1億9,741万円
資本的収入 及び支出	収入	支出	不足額
	1,998万円	7億7,807万円	7億5,809万円

(下水道事業会計)

収益的収入 及び支出	収入	支出	当期純利益
	19億2,708万円	17億7,195万円	1億5,513万円
資本的収入 及び支出	収入	支出	不足額
	5億3,480万円	7億5,548万円	2億2,068万円

※企業会計の表について…消費税抜き金額です。資本的収入が資本的支出に不足する分は、損益勘定留保資金などで補填しました。

◆各年度末の市債残高の推移

会計名	平成25年度末	平成26年度末	平成27年度末
一般会計	148億円	154億9千万円	154億1千万円
志木駅東口 地下駐車場事業	3億円	2億6千万円	2億2千万円
水道事業	32億6千万円	30億6千万円	28億6千万円
下水道事業 (法適)	—	67億2千万円	61億4千万円
下水道事業 (法非適)	68億9千万円	—	—
館第一排水 ポンプ場	4億2千万円	—	—
市全体	256億7千万円	255億4千万円	246億3千万円

市民1人あたりでは…

借金残高 33万円(前年度比▲2万円)

◆志木市の健全化判断比率

()内：早期健全化基準

実質赤字比率 「-」 (12.88%)

一般会計が黒字であるか赤字であるかを判断する指標

連結実質赤字比率 「-」 (17.88%)

一般会計のほか、特別会計及び企業会計を含めて、黒字か赤字かを判断する指標

実質公債費比率 0.2% (25.0%)

借金の返済に充てている収入の割合を過去3か年の平均値で示すもの

将来負担比率 「-」 (350.0%)

収入に対して、将来的に負担しなければならない借金などの割合がどのくらいになるかを示すもの

◆志木市の資金不足比率

()内：経営健全化基準

水道事業会計…「-」 下水道事業会計…「-」 (20.00%)

公営企業会計ごとの事業の規模に対する、資金の不足額の割合を示すもの

※実質赤字比率及び連結実質赤字比率の「-」は、黒字会計であることを表す。

※将来負担比率の「-」は、将来支払う借金の返済額などよりも、将来の収入見込額が大きいことを表す。

※資金不足比率の「-」は、資金不足がないことを表す。

特別会計・企業会計

特別会計は、市が特定の事業を行う場合に設置し、その特定の歳入をもって特定の歳出に充てるものです。
企業会計は、独立採算制を原則とする企業の色彩の強い事業を行う場合に、法令や条例に基づいて設置するものです。

市債(借金)残高は、道路、学校、公園などの公共施設の建設や更新費用が減少したことに伴って、前年度より9億円の減少となりました。
今後も、将来に役立つ財産形成のために、財政負担を考慮しながら計画的な借入と返済をしていきます。

市債残高の推移

財政状況は健全

健全化判断比率の基準によれば、市の財政状況は健全ですが、これらの数値には、これから事業に取り組むこととなる新庁舎建設をはじめ、公共施設の維持・更新経費や、借地となっている学校・公園用地を取得することになった場合に発生する費用などは含まれません。したがって、引き続き、健全な財政運営に向けて注意しながら、行政経営を進めていくことが大切です。

市ホームページでは、図表付きで